

「大阪市立科学館 連続オンライン講座」実施報告

長谷川 能三 *

概要

大阪市立科学館では、施設整備等に伴う長期休館に合わせ、学芸員11人が交替で担当する連続講座をオンラインで実施した。そこで、その内容・実施方法等について報告する。

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会や演劇等さまざまな分野でオンラインを併用するなどして事業が実施されてきている。

そんな中、大阪市立科学館では、施設整備等のため2021年8月23日(月)から2022年2月1日(火)までの半年近く、長期休館することとなった。そこで休館中でも市民が参加できる事業として、各学芸員が交替で、それぞれの専門分野や大阪市立科学館の資料・展示に関する話、タイムリーな話題など、バラエティ豊かなテーマでお話しする連続オンライン講座を実施した。

2. 実施概要

実施した連続オンライン講座の概要は、以下のとおりである。

事業名：大阪市立科学館 連続オンライン講座

日時：2021年9月4日～2022年1月22日

隔週土曜日 10時30分～12時

見逃し配信は2022年2月13日まで

配信方法：主にZoomによる生配信

見逃し配信は、科学館Webサイト上の専用ページでの動画視聴

参加費：全11回受講 2,000円(一般)

1,500円(友の会会員)

各回個別受講は、1回あたり300円

申込方法：当館のチケット購入サイト(Webket)より

参加費の払い込みで申し込み受け付け

参加者数：全11回受講 120人

各回個別受講 のべ68回分

通常、館内で実施する普及事業は、土曜日や日曜日の午後に実施することが多い。しかし今回は、自宅で受講できるため科学館までの移動時間が不要であり、また生配信で受講できない場合も見逃し配信で視聴できるように設定していた。そのため、土曜日ではあるが午前中の実施とした。

各回の担当者およびテーマは表1のとおりである。

表1. 各回の担当者とテーマ

	担当者	テーマ
①	嘉数 次人	科学館にある江戸時代の天文資料を詳しく紹介
②	石坂 千春	天文学者が見たゴッホの星空
③	江越 航	展示場の歩き方 ～X線天文学を中心に～
④	西岡 里織	雨はどうして降るの？ －雲と雨の話－
⑤	上羽 貴大 宮丸 晶	錬金術から化学へ その1
⑥	渡部 義弥	星の歳のしらべかた
⑦	飯山 青海	レオナード彗星の直前情報
⑧	大倉 宏	ハドロンとレプトンの物理 ～科学館の展示より～
⑨	宮丸 晶 上羽 貴大	錬金術から化学へ その2
⑩	西野 藍子	電波で見る宇宙 ～アルマ望遠鏡 10周年によせて
⑪	長谷川能三	光と色の七不思議

*大阪市立科学館 学芸員
hasegawa@sci-museum.jp

3. 実施方法

今回の連続オンライン講座では、当館でこれまで実施してきた普及事業とは、実施方法についてさまざまな部分で異なるものとなった。

3-1. 参加申し込み・連絡方法

当館の普及事業は、どなたでも申し込みができるよう往復はがきで申し込みを受け付け、申し込み多数の場合は抽選、参加費は当日科学館で受領するという場合が多い。しかし今回の連続オンライン講座の場合は、講座に参加するためにはインターネット通信環境が整っていなければならない、定員（人数制限）もなく、また参加者が科学館へ来ることもない。このようなことから、当館の展示場やプラネタリウムのチケットを購入するWebサイト（Webket）にて講座の参加費を支払うことにより申し込み受け付けとした。

なお、長期休館中は来館者等に配布している「科学館だより」の発行もないため、広報手段としては主にホームページやツイッター、機関誌「月刊うちゅう」等に限られた。

Webketでのチケット購入にはメールアドレスの登録が必要であり、このメールアドレスを参加者との基本的な連絡手段とした。参加募集の要項で、Webketでのチケット購入から3日以内にこちらからメール連絡をすることとし、連絡がない場合（メール不達等の場合）には、科学館に電話連絡していただくこととした。ただ、メール連絡では必ず参加者のメールアドレスはBccに入れることはもちろんのこと、個別チケット購入者にはそれに合わせた内容にしなければならない。また各回のメール連絡が済んだ後、講座の前日の夜や当日に申し込みされる方などもあり、メール送信がかなり煩雑な作業となった。

メールとは別に、大阪市立科学館のホームページ（<https://www.sci-museum.jp>）の下に、rkz, r2k, iyc…などアルファベットと数字で3文字のフォルダを作成し、こちらにも連絡事項を記載したり、見逃し配信の動画置き場とした。こうすることにより、メールが届いていない等の連絡が電話であった場合にも、科学館のホームページを開いていただき、URLの後ろに「/rkz」と付けてくださいといった簡単な説明で見えていただくことができた。これらのフォルダ名は類推できないようにし、見逃し配信終了にあわせて削除した。

参加申し込みの自動返信メールにこのURLを記載し、「この講座に関する情報は全てこのサイトを見てください」とすればメールを出す必要がなくなり、かなり労力を削減できたと思われる。しかし、参加者としては講座各回の前日（または前々日）にメール連絡があった方が忘れにくくていいかもしれない。

3-2. 配信方法

配信は主にリモート会議システムのZoomを用いた。参加者の中にはZoomの使用が初めてという方もいらっしゃるため、パソコンの場合とスマートフォンの場合のそれぞれについて、Zoomアプリのダウンロードや接続方法、接続に伴う注意事項等について、メールやHPの連絡ページに詳しく記載した。

また、当館のZoomアカウントはZoomウェビナーのアドオン契約をしていないため、Zoomミーティングでの実施となった。このため、参加者は全員カメラおよびマイクをオフの状態で行なった。

講座では、最初に話者を映して挨拶をした後、画面はパワーポイントに切り替え、ワイプで話者を入れることが多かった。途中で資料を映して見せることもあったり、中には複数のカメラを用いてその場で実験を見せる回もあった。

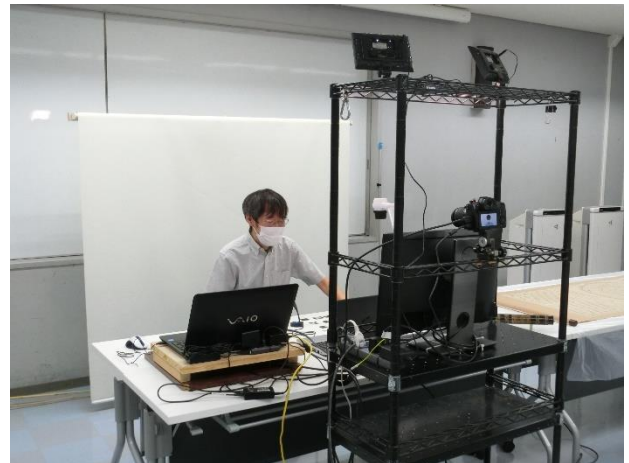


写真1. 配信の様子

リアルタイム視聴している方からはGoogle Formで質問を受け付け、各回の最後に質問対応の時間を設けた。

4. アンケート結果

各回毎にGoogle Formでアンケートをとった。対面の講座でアンケート用紙を配布するのと比べ回収率は悪く、1回あたり回答数は平均15程度と少なかった。図1は、全11回のアンケートののべ結果であるが、概ね内容にも満足していただき、1時間30分という時間も適当、配信の画質や音質もよかったようであり、自由記述欄でも肯定的な意見が多かった。

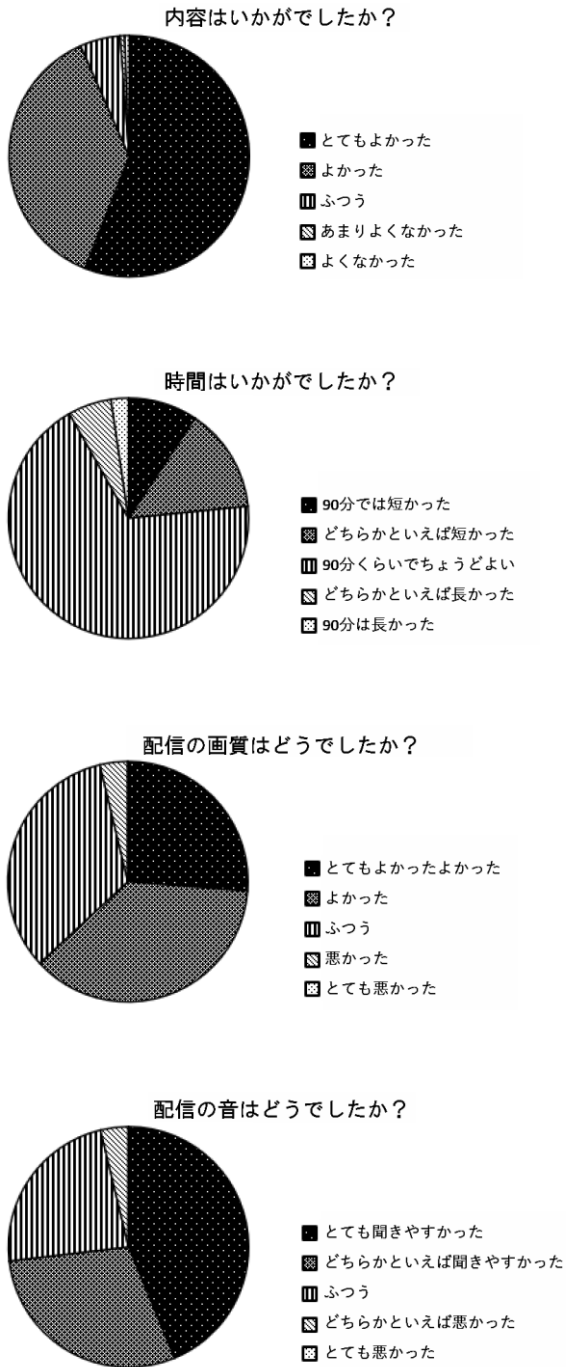


図1. アンケート結果1

また、最終回には視聴方法や今後の希望等についてアンケートを行なった。こちらも回答数は22とあまり多くなかったが、図2および表2のような結果となった。

この中で「大阪市立科学館に行ったことはあるが、行事に参加するのは初めて」という回答が比較的多く、オンラインで事業を行なうことにより、新たな層の参加があったと思われる。

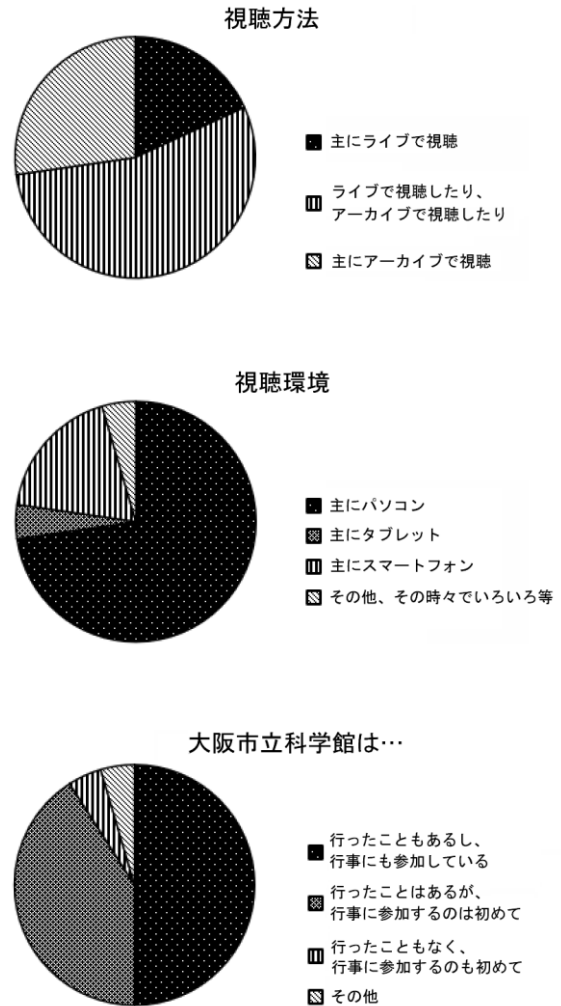


図2. アンケート結果2

表2. アンケート結果3

今後の希望(複数回答可)	
今回のようにいろいろなテーマでやってほしい	18
ひとつのテーマでもっと深くやってほしい	7
もっとやさしい話を聞きたい	2
もっと詳しい話を聞きたい	0
その他	1

5. その他

5-1. トラブル等

連続講座を行なう中で、以下のようなトラブル等があり、対応した。

- (1) 資料を映すなど作業の時にいったんマイクを切った後、マイクを入れ直すのを忘れた。
→ 少し話をした後で気づき、話をし直した。
- (2) カメラを一時的に話者に切り替えた後、パワーポイントに戻すのを忘れたまま話を続けた。
→ 通常は長谷川がサポートで付いていたが、長谷川が話者のためしばらく気づかず、あらためてパワーポイントを画面に出して話をし直した。
- (3) Webketで支払いをしたが、メールが届かない。
→ 電話で連絡があり、ホームページの連続講座専用のサイトを口頭でお知らせし、今後もメールが届かない場合はそのサイトを見るようにしていただいた。
- (4) 視聴者の一人が誤って画面共有をし、デスクトップが表示された。
→ すぐに画面共有を停止し、見逃し配信用の動画では、その部分の映像をパワーポイントに差し替えた。また、以降は参加者が画面共有等をできない設定にした。

5-2. その他

その他トラブルではないが、以下のようなこともあった。

- (1) 個別券から通し券への変更
通し券よりも個別券の方が割高のため、何回か個別券で視聴した後、通し券への変更希望があった場合に、料金の差額の支払い方法を検討していたが、実際にはそのような希望はなかった。
- (2) 視聴ができない等のトラブル
視聴環境もさまざまであるので、Zoomに入れない、見逃し配信が見られない等の連絡があった場合に対応可能かどうか心配していたが、このような連絡はなかった。
- (3) ツイッターでの拡散
当館のツイッターアカウントで連続講座をお知らせした内容が、フォロワーの非常に多い方にリツイートされ、その回の個別受講が急に増えたことがあった。

6. おわりに

当館では初めての方法で実施した講座であり、手間がかかったり多少のトラブルがあったりしたが、概ね好評であった。今後、このような形で事業を行なっていくいい前例になればと思う。